

[総会資料と決定事項]

日本透析医会通常総会資料および主な決定事項

日本透析医会通常総会が平成 15 年 5 月 18 日（日）午後 2 時からホテルニュー神田（東京）にて開催された。以下に、その際の資料（抜粋）と主な決定事項を報告する。

（社）日本透析医会通常総会資料
平成 14 年度事業報告書
平成 14 年度収支決算書
平成 15 年度事業計画（案）
平成 15 年度予算（案）

平成 15 年度通常総会での主な決定事項

（社）日本透析医会通常総会議事録
（社）日本透析医会役員名簿

(社) 日本透析医会通常総会資料

第 1 号議案

平成 14 年度事業報告書

第 1 会 議

総 会

1. 平成 14 年度通常総会

- 平成 14 年 5 月 19 日 第 1 号議案 平成 13 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
第 2 号議案 平成 14 年度事業計画及び予算の承認を求める件
第 3 号議案 規程等の改正及び新規施行の承認を求める件
第 4 号議案 その他

2. 平成 14 年度臨時総会

- 平成 15 年 1 月 26 日 第 1 号議案 修正予算の承認を求める件
第 2 号議案 研究助成の承認を求める件
第 3 号議案 その他

理事会

1. 平成 14 年 5 月 19 日

- 通常総会付議事項 第 1 号議案 平成 13 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
第 2 号議案 平成 14 年度事業計画及び予算の承認を求める件
第 3 号議案 規程等の改正及び新規施行の承認を求める件
第 4 号議案 その他

2. 平成 15 年 1 月 26 日 (臨時)

- 臨時総会付議事項 第 1 号議案 修正予算の承認を求める件
第 2 号議案 研究助成の承認を求める件
第 3 号議案 その他

常任理事会

1. 平成 14 年 4 月 26 日 (臨時)

- 協議事項 (1) 平成 14 年度厚生労働科学研究事業計画について
21 世紀型医療開拓推進研究事業「長期透析に伴う合併症の克服に関する研究」
継続 2 年目
① 研究終了後 (平成 15 年度) の取扱について
成果物の医会事業としての取り組み

- ② 平成 14 年度（MINT 2 年目）の実施計画について
 - a) データベースの構築のためのソフト開発
 - b) 検査データ解析のバージョンアップのためのソフト開発
- ③ 基本原則としての研究費総額の算出根拠及び提示について
- (2) 平成 14 年度厚生労働科学研究補助事業について（新規計画）
課題名 透析施設における医療事故・感染（C 型肝炎）防止安全対策の確立に関する研究
- (3) 厚生労働科学研究事業への経費等の支援体制について
助成事業の取扱
- (4) 平成 13 年度厚生労働科学研究（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究）への経費の助成について
- (5) 厚生労働科学研究補助事業年度別実施状況について
- (6) 厚生労働科学研究補助事業業務の流れについて
- (7) 諸規程に定められた業務分担等について
- (8) 検査に伴う是正改善事項の処理状況について
- (9) 職員の給与（年俸）の変更について

2. 平成 14 年 5 月 19 日

協議事項

- (1) 平成 13 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件
- (2) 平成 14 年度事業計画及び予算の承認を求める件
- (3) 規程等の改正及び新規施行の承認を求める件
- (4) その他

3. 平成 14 年 7 月 12 日

協議事項

- (1) 平成 14 年度診療報酬改定に伴う影響実態調査について
- (2) 平成 14 年度厚生労働科学研究新規申請について（肝炎等克服緊急対策事業）
- (3) 継続分厚生労働科学研究主任研究者の変更について（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究）
- (4) 出納責任者の発令について
- (5) 諸規程に定められた業務分担等について（継続）
- (6) その他

報告事項

- (1) 職員の退職について
- (2) フィブリノゲン製剤に係る C 型肝炎（非 A 非 B 型肝炎）に関する調査について
- (3) その他

4. 平成 14 年 9 月 13 日

協議事項

- (1) 創立 15 周年記念シンポジウムについて <招待者勧誘依頼>
- (2) 厚生労働科学研究費補助金（効果的医療技術の確立推進臨床研究事業）の交付申請について <MINT フェーズ 2>
- (3) 診療費改定に伴う透析医療施設の対応に関するアンケート調査について

- (4) 臓器不全対策推進功労者厚生労働大臣感謝状贈呈候補者の推薦について
- (5) 平成 14 年度臓器移植普及推進月間の主催及び臓器移植推進国民大会の後援について

報告事項

- (1) (財)愛知腎臓財団の保健文化賞受賞について
- (2) 日本臨床工学技士会主催「ペースメーカー関連業務取得セミナー」後援お礼について
- (3) 厚生労働科学研究費補助金（効果的医療技術の確立推進臨床研究事業）国庫補助の交付基準額等について
- (4) 疫学研究に関する倫理指針の施行等について
- (5) 臨床研究実施チームの整備に関する公募について
- (6) 日本医師会副会長 青柳 俊先生（中医協委員）訪問について
- (7) 透析医療従事者向けビデオ「限りなき挑戦!! 透析施設の事故防止」について

5. 平成 14 年 11 月 10 日

協議事項

- (1) 職員の採用について（事務局長）
- (2) 「MINT」に係る業務委託契約の締結について
- (3) 臨時常任理事会・理事会・総会の開催について
- (4) 医会 HP 記事の支部 HP への転載について

報告事項

- (1) 平成 14 年度臓器不全対策推進功労者厚生労働大臣感謝状の受賞について
- (2) 平成 14 年度中間決算の結果について
- (3) 緊急警報及び緊急会報について
- (4) 診療報酬改定に伴う透析医療施設の対応に関するアンケート結果について

6. 平成 15 年 1 月 26 日

協議事項

- (1) 臨時理事会及び臨時総会の開催について

報告事項

- (1) 15 周年記念シンポジウムについて
11/20 厚生労働省 藤井疾病対策課長 訪問
11/25 日本医師会 糸氏副会長 訪問
- (2) 新事務局長 水本 進氏の採用について
- (3) 日医「緊急医業経営実態調査」の協力依頼について
- (4) 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策事業）交付申請について
- (5) 島根県支部の設立について
- (6) 厚生労働保健局医療課訪問：透析医療の現況説明
- (7) 持続可能な透析医療のためのグランドデザイン作成について

7. 平成 15 年 3 月 14 日

協議事項

- (1) 平成 15 年度通常理事会及び通常総会の開催について
- (2) 会費収入（会員）の増加方策について

- (3) 医会雑誌等原稿料の改定について
- (4) 厚生労働科学研究（MINT）平成 13 年度研究報告書の提供について
- (5) 医歯薬情報 HP から本会 HP へのリンク依頼について
- (6) (社)日本透析医会名義の使用許可について

報告事項

- (1) 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服緊急対策研究事業(肝炎分野)）交付決定について
- (2) 学会等研究助成交付委員会について
- (3) 職員の退職について（事務局次長）

第2 委員会

平成14年度委員会開催状況

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

委員会	開催年月日	備考
1. 適正透析療法委員会		
(1) 適正透析導入部会		
(2) 維持透析療法部会		
(3) 適正透析普及部会		
(4) 適正医療経済部会	平成14年10月30日 平成14年11月20日 平成14年12月20日 平成15年01月24日	ワーキング／医療制度検討部会 ワーキング／医療制度検討部会 ワーキング／医療制度検討部会 ワーキング／医療制度検討部会
(5) 医療廃棄物対策部会		
(6) 在宅血液透析部会		
(7) 医療制度検討部会	平成14年10月30日 平成14年11月20日 平成14年12月20日 平成15年01月24日	適正医療経済部会との合同 適正医療経済部会との合同 適正透析普及部会との合同 適正医療経済部会との合同
2. 危機管理委員会		
(1) 災害時透析医療対策部会	平成14年07月20日	
(2) 感染症対策部会		厚生科学推進委員会：班会議（C型肝炎感染対策・事故防止）で関連事項審議
(3) 医療事故対策部会		
3. 合併症対策委員会	平成14年08月09日	
4. 腎移植普及推進委員会		
5. 腎不全予防医学調査研究委員会		
6. 研修委員会	平成14年08月29日 平成14年11月10日 平成15年03月02日	
7. 広報委員会	平成14年07月12日 平成14年11月01日 平成15年01月29日	
8. 情報管理委員会		常任理事会で関連事項審議
9. 内規委員会	平成15年03月31日	
10. 厚生科学研究推進委員会	平成14年04月26日 平成14年08月02日 平成14年09月13日 平成14年10月25日 平成14年11月29日 平成14年12月20日 平成15年02月21日 平成15年03月02日	班会議（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究） 班会議（C型肝炎感染対策事故防止に関する研究） 班会議（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究） 班会議（C型肝炎感染対策事故防止に関する研究） 班会議（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究） 班会議（C型肝炎感染対策事故防止に関する研究） 班会議（長期透析に伴う合併症の克服に関する研究） 班会議（C型肝炎感染対策事故防止に関する研究）

委員会	開催年月日	備考
11. 学会等助成審査委員会	平成 14 年 07 月 12 日 平成 14 年 11 月 10 日 平成 15 年 01 月 14 日 平成 15 年 03 月 14 日	第 49 回社団法人日本透析医学会学術集会 カルシトリオール注に関する研究 千葉県透析医会学術講演会 第 9 回日本腹膜透析研究会ほか 4 件
12. 学会等研究助成交付審査委員会	平成 15 年 03 月 07 日	
13. 倫理委員会		

平成 14 年度委員会報告

1. 適正透析療法委員会

(1) 適正透析導入部会

透析導入者審査委員会設置支部（栃木・愛知）に助成した。

愛知県透析療法審査会の報告（12 年・13 年）については医会雑誌 Vol. 17 No. 3 に掲載した。

(2) 適正医療経済部会

（平成 14 年度 4 回開催）

1) 透析医療費の分析について検討を行い、病院及び診療所（149 施設）の協力を頂き、平成 14 年 6 月分外来透析レセプト集計が行われた。報告については平成 15 年度日本透析医会雑誌に掲載します。

2) 次期 16 年度診療報酬改定に向けての要望に関し、以下について討議された。

- ① 透析時間区分の復活
- ② エンドトキシン加算の新設
- ③ シャント PTA/シャント手術回数などの見直し

3) 透析施設基準検討委員会（W・G）について、4 回にわたり討議された。今後も引続き検討し、作業を進めていきます。

(3) 医療制度検討部会

（平成 14 年度 4 回開催）

適正医療経済部会と合同で開催。

2. 危機管理委員会

(1) 災害時透析医療対策部会

（平成 14 年度 1 回開催）

1) 災害時情報ネットワークシステムの設立については、引続き検討し、作業を進めています。現在 8 支部にシステム構築が実施されている。

2) 第 3 回災害時情報伝達訓練を行い、131 施設が参加した。

今回の訓練では、参加施設が任意に想定した災害時情報、または「近隣地域で阪神・淡路大震災の地震発生を知った」などの想定で情報を送信してもらい、各施設がどのような被害を想定したのかを集計した。結果は医会雑誌（Vol. 17 No. 3）に掲載。

3. 合併症対策委員会

（平成 14 年度 1 回開催）

平成 14 年度透析患者の合併症とその対策「透析患者の泌尿器疾患」の発刊等について検討し、4 月に会員に送付する。

4. 腎移植普及推進委員会

臓器不全対策推進功労者厚生労働大臣感謝状

理事・腎不全予防医学調査研究委員会委員長 小出桂三氏（社会保険都南病院院長）

5. 腎不全予防医学調査研究委員会

「腎不全治療マニュアル」を会員に送付した。（2月）

6. 研修委員会

（平成14年度3回開催）

(1) 学術研究に助成した。

1) 香川県透析医会

研究課題：「維持透析患者におけるマキサカルシトールの副甲状腺ホルモン分泌抑制と造血能に関する検討」

2) 大阪府透析医会

研究課題：「血液透析における透析液中エンドトキシンの挙動」

3) 大阪府透析医会

研究課題：「血液透析患者のビタミンE、ビタミンC、特に腎性貧血との関係」

4) 広島県透析連絡協議会

研究課題：「ヒト腹膜中皮細胞および腹膜線維芽細胞に対する angiotensin II の影響とその細胞内シグナリングについて」

(2) 下記支部が開催した研修会・講演会に助成した。

支部名	会場	開催年月日
宮城県透析支部	フォレストホール・会議室	平成14年12月1日
青森県透析医会	ふるさと交流県民センター	平成14年6月2日
熊本県透析医会	済生会熊本病院管理棟大ホール	平成14年5月12日
鹿児島県透析医会	城山観光ホテル	平成14年5月18日
高知県透析医会	福祉交流プラザ	平成14年9月29日
大阪透析医会	テイジンホール	平成14年11月16日
愛知県透析医会	名古屋国際ホテル	平成14年11月24日
大分県透析医会	大分東洋ホテル	平成14年4月23日
福島県透析医会	郡山ビューホテル	平成14年8月24日

(3) (社)日本透析医会創立15周年記念シンポジウムを開催した。

「5年後の腎不全医療を考える」

日 時：平成14年11月10日（日曜日）

午後1時～午後4時30分

場 所：都市センターホテル

基調講演：糸氏英吉先生

座 長：鈴木正司（信楽園病院）

秋澤忠男（和歌山県立医科大学）

講演者：頼岡徳在先生（広島大学医学部付属病院）ほか4名

- (4) (社) 日本透析医会研修セミナーを開催した。
透析医療における Current Topics 2003
日 時：平成 15 年 3 月 2 日（日曜日）
午前 9 時 30 分～午後 3 時 35 分
場 所：津田ホール
司 会：鈴木正司（信楽園病院）
講 演 者：衣笠えり子先生（昭和大学横浜市北部病院）ほか 4 名

7. 広報委員会

（平成 14 年度 3 回開催）

- (1) 日本透析医会の企画・編集等について、討議された。
- (2) 医会雑誌 Vol.17 No.1 発刊
 - 1) 医療保険適用を視野に入れた血液浄化療法の系統化
 - 2) 血液透析の定義と適応病態
 - 3) 血液濾過の定義と適応病態
 - 4) 血液透析濾過の定義と適応病態
 - 5) 直接血液吸着の定義と適応病態
 - 6) 血漿浄化の定義と適応病態
 - 7) 細胞吸着・除去の定義と適応病態
 - 8) 急性血液浄化の定義と適応病態
 - 9) 医工学的にみた血液浄化
 - 10) 透析施設を有する診療所における C 型肝炎ウイルス院内感染調査報告書の掲載にあたって
 - 11) 透析施設を有する診療所における C 型肝炎ウイルス院内感染調査報告書
 - 12) CAPD の段階的導入法 (SMAP)
 - 13) 生体腎ドナーに対する鏡視下腎摘出術
 - 14) 透析シャントトラブルに対するステント留置の経験
 - 15) 透析医療と最近の情勢
 - 16) ブラッドアクセスをめぐるトラブルとその対処
 - 17) 平成 12 年度千葉県における透析医療機関感染性廃棄物の現状に関するアンケート調査（第 3 報）
 - 18) 支部だより（山梨・福島）
- (3) 医会雑誌 Vol.17 No.2 発刊
 - 1) 透析非導入と透析継続中止 — 国内外の現況と課題 —
 - 2) 血液透析不導入・中止の応用医学哲学的考察
 - 3) 精神科医として、患者として、「日本での透析中止」を考える
 - 4) 透析スタッフが抱えるストレスとその対処
 - 5) 透析中断の諸問題（合意にむけて）— 患者・医師のアンケート調査より —
 - 6) 進行癌を合併した透析患者の終末期医療を考える
 - 7) 外来透析施設における終末期看護
 - 8) 透析業務におけるインシデント・アクシデント報告
 - 9) 平成 14 年社会保険診療報酬改定の周辺 — 雑感 —
 - 10) 第 5 回透析医療費実態調査報告
 - 11) 内部濾過促進型血液透析

- 12) 透析と降圧薬 — 透析症例の降圧療法に関する臨床研究について —
- 13) 献腎移植 — レシピエント選択基準の変更 —
- 14) 北海道における透析導入の現況 — 道内透析施設のアンケート調査より —
- 15) 糖尿病性腎症による透析患者の血中ホモシステインの動脈硬化性病変への関与
- 16) 慢性透析患者における身体活動性や生命予後におよぼす要因に関する前向き長期多施設研究
- 17) 透析中の低血糖の機序
- 18) 維持透析患者におけるビタミン E 固定化ダイアライザーを用いた酸化ストレス軽減作用に関する検討
- 19) eNOS 遺伝子多型が透析患者の動脈硬化進展に与える影響の検討
- 20) 長期透析に伴う合併症の克服に関する研究
- 21) 日本透析医学会通常総会資料および主な決定事項
- 22) 支部だより (和歌山・熊本)

(4) 医会雑誌 Vol.17 No.3 発刊

- 1) 災害情報ネットワーク会議と情報伝達訓練実施報告
- 2) 岡山県における透析医療危機管理システム (第 4 報)
- 3) 第 7 回 (平成 14 年度) 透析保険審査に関する懇談会
- 4) 平成 14 年度診療報酬改定とその影響について
- 5) 医療制度改革とこれからの方向
- 6) 当院での電子カルテシステムと透析部門における IT 化
- 7) 透析患者における皮膚掻痒症の治療
- 8) 透析患者の歯科的諸問題
- 9) 二次性副甲状腺機能亢進症の治療戦略
- 10) 愛知県透析療法審査会議報告
- 11) 透析医療に関する医療訴訟・医療事故
- 12) 愛知県の透析施設における B 型および C 型肝炎ウイルス感染の現況 (第 2 報) — 愛知県透析医学会共同研究 —
- 13) (社) 日本臨床工学技士会の設立について
- 14) 日本腎不全看護学会設立の経緯
- 15) 支部だより (岡山・富山)

8. 厚生科学研究推進委員会

(平成 14 年度 8 回開催)

(1) 厚生労働科学研究「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業 (生活習慣病分野)」

厚生科学研究「21 世紀型医療開拓推進研究事業」は、14 年度から厚生労働科学研究「効果的医療技術の確立推進臨床研究事業」に名称変更された。

長期透析に伴う合併症克服に関する研究の第 2 段階として、13 年度作製配布した透析検査結果評価システムに検査結果値の経時的変化判定、複数項目検査結果によるフローチャート貧血判定を加え、診断と予防機能を充実させ、MINT システム利用の利便性も加味し、バージョンアップした。また、患者の検査データを容易にかつ安全に集積できるサーバ機能を確立し、患者が施設を移動しても過去のデータを移動先で容易に参照できる環境を整備した。更に長期透析患者の合併症に関する「診断と治療マニュアル」を作製し、各種合併症の診断、治療に役立つようにした。このマニュアルを CD-ROM に記録し、施設会員(1040 施設)に配布した。

(2) 厚生労働科学研究「肝炎等克服緊急対策研究事業(肝炎分野)」

血液透析施設におけるC型肝炎感染対策事故(含：透析事故)防止体制の確立に関する研究の第1段階として、以下のとおり調査及び研究を開始した。

- 1) 透析患者におけるC型肝炎新規感染と環境との関係調査
- 2) 透析事故に関するアンケート調査 (3327施設)
- 3) 施設基準に関するアンケート調査 (3327施設)
- 4) 透析看護基準に関する検討

9. 学会等助成審査委員会

(平成14年度4回開催)

学 会 等	開 催 日
第49回日本透析医学会学術集会	平成16年6月18日～20日
平成15年度千葉県透析医学会学術集会	平成15年2月14日
第9回日本腹膜透析研究会	平成15年10月4日～5日
第30回東北腎不全研究会	平成15年8月23日～24日
第20回日本医工学治療学会	平成16年4月21日～23日

研 究	研 究 内 容
カルシトリオール注に関する研究 透析施設に於ける医療事後防止に関する研究 透析医療の将来展望に関する研究 長期透析に伴う合併症の克服に関する研究	透析患者のカルシトリオールの反応性を評価 限りなき挑戦！透析施設の医療事故防止 透析医療のグランドデザイン作成 長期生存と合併症予防を考えた透析医療システムの作製

以上の学会及び調査研究について申請を受け、審査した。

平成 14 年度収支決算書

1. 収支計算書（平成 14 年 4 月 1 日から平成 15 年 3 月 31 日まで）

(単位：円)

科 目	平成 14 年予算 (修正)	決 算 額	差 異	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	77,220,000	77,924,000	704,000	
2. 入会金収入	270,000	390,000	120,000	
3. 寄付金収入	32,095,000	34,525,500	2,430,500	
4. 雑収入	1,012,000	1,019,415	7,415	
5. 受取利息収入	3,000	2,495	-505	
6. 会場収入	0	148,000	148,000	
7. 銀行預金取崩収入	70,000,000	70,000,000	0	
当期収入合計 (A)	180,600,000	184,009,410	3,409,410	
前期繰越収支差額	45,597,000	45,597,294	294	
収入合計 (B)	226,197,000	229,606,704	3,409,704	
II 支出の部				
1. 事業部				
透析医療適正化事業費	7,863,000	6,549,810	-1,313,190	
地域透析医療システム事業費	5,793,000	5,597,520	-195,480	
腎移植普及推進事業費	8,771,000	5,837,396	-2,933,604	
腎不全予防医学調査研究費	6,535,000	8,457,537	1,922,537	
研修等事業費	11,493,000	11,934,233	441,233	
広報活動費	12,337,000	12,162,503	-174,497	
情報管理委員会	0	0	0	
内規委員会	0	0	0	
倫理委員会	0	0	0	
学会等助成審査委員会	104,157,000	99,038,780	-5,118,220	
学会等研究助成交付審査委員会	0	214,201	214,201	
厚生科学研究推進委員会	27,161,000	29,444,030	2,283,030	
15周年記念シンポジウム	8,060,000	7,925,054	-134,946	
事業費合計	192,170,000	187,161,064	-5,008,936	
2. 管理費				
人件費	13,941,000	14,253,859	312,859	
家賃	2,333,000	2,333,076	76	
その他経費	7,828,000	6,153,986	-1,674,014	
管理費合計	24,102,000	22,740,921	-1,361,079	
3. 予備費	0	0	0	
当期支出合計 (C)	216,272,000	209,901,985	-6,370,015	
当期収支差額 (A)-(C)	-35,672,000	-25,892,575	9,779,425	
次期繰越収支差額 (B)-(C)	9,925,000	19,704,719	9,779,719	

2. 正味財産増減計算書（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 資産増加額			
固定資産（銀行預金）増加額	1,486	1,486	
増加の部合計			1,486
II 減少の部			
1. 資産減少額			
当期収支差額	25,892,575		
銀行預金減少	70,000,000	95,892,575	
減少の部合計			95,892,575
当期正味財産減少額			95,891,089
前期繰越正味財産額			281,410,666
期末正味財産合計額			185,519,577

3. 貸借対照表（平成 15 年 3 月 31 日現在）

（単位：円）

科 目	金 額		
I 増加の部			
1. 流動資産			
現金預金	20,688,027		
仮払金	70,300		
流動資産合計		20,758,327	
2. 固定資産			
(1) 固定資産			
銀行預金	162,001,486		
銀行預金合計	162,001,486		
(2) その他の固定資産			
電話加入権	563,372		
淡路建物ビル保証金	6,300,000		
警備保証金	50,000		
その他の固定資産合計	6,913,372		
固定資産合計		168,914,858	
資産合計			189,673,185
II 負債の部			
1. 流動負債			
会費預り金	64,000		
所得税預り金	674,278		
住民税預り金	97,000		
健康保険預り金	76,060		
厚生年金預り金	142,270		
流動負債合計		1,053,608	
2. 固定負債			
退職給与引当金	3,100,000		
固定負債合計		3,100,000	
負債合計			4,153,608
III 正味財産の部			
正味財産			185,519,577
（うち当期正味財産減少額）			(95,891,089)
負債及び正味財産合計			189,673,185

4. 計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金、及び仮払金、及び預り金を含めている。

なお、当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高
現金預金	20,688,027
仮 払 金	70,300
合 計	20,758,327
会費預り金	64,000
所得税預り金	674,278
住民税預り金	97,000
健康保険預り金	76,060
厚生年金預り金	142,270
合 計	1,053,608
次期繰越収支差額	19,704,719

5. 財産目録（平成15年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	27,029	
郵便振替	427,839	
普通預金 東京三菱銀行神田支店	16,062,762	
東京三菱銀行神田支店	276	
みずほ銀行神田小川町支店	158,269	
三井住友銀行神田支店	232,629	
りそな銀行神田支店	2,066,106	
りそな銀行神田支店	1,713,117	
仮払金	70,300	
流動資産合計		20,758,327
II 固定資産		
1. 銀行預金		
東京三菱銀行（普通預金）	162,001,486	
銀行預金計	162,001,486	
2. 固定資産		
その他の固定資産		
電話加入権	563,372	
保証金 淡路建物ビル保証金	6,300,000	
警備保証金	50,000	
その他の固定資産合計	6,913,372	
固定資産の部合計		168,914,858
資産の部合計		189,673,185
III 負債の部		
1. 流動負債		
預り金		
年会費	64,000	
職員等に対する源泉所得税	674,278	
職員等に対する住民税	97,000	
職員等に対する健康保険	76,060	
職員等に対する厚生年金	142,270	
流動負債合計		1,053,608
2. 固定負債		
退職給与引当金	3,100,000	
固定負債合計		3,100,000
負債の部合計		4,153,608
正味財産		185,519,577
負債及び正味財産合計		189,673,185

管理費内訳

(単位：円)

給料					12,245,603
法	定	福	利	費	1,503,611
通		勤		費	504,645
旅	費	交	通	費	302,587
会		議		費	17,374
交	際	接	待	費	8,053
福	利	厚	生	費	101,199
印	刷	製	本	費	307,807
通	信	運	搬	費	622,162
消	耗		品	費	527,263
委		託		費	820,500
報	酬	(要	源	泉)	333,333
水	道	光	熱	費	194,580
家		会		賃	2,333,076
諸				費	153,739
租	税	公		課	3,000
慶		吊		費	10,000
雜				費	291,699
常	任	理	事	会	279,529
総	会	・	理	事	2,181,161
				会	
	合	計			22,740,921

監査報告書

社団法人日本透析医会の平成 14 年度決算報告につき慎重に監査した結果
妥当なものと認めます。

平成 15 年 4 月 14 日

社団法人 日本透析医会


監事

大森 由 

監事

岩月 史郎 

監事

伊原 美好 

社団法人 日本透析医会

会 長 山 崎 親 雄 殿

第2号議案

平成15年度事業計画書（案）

事業計画の概要

1. 透析医療の適正化に関する調査研究事業

適正な透析療法の検討に関する調査・研究

適正透析療法委員会 [委員会のもとに7部会を置く]

* 透析療法の質的向上と普遍化を目的とする調査・研究

(1) 適正透析導入部会

適正な導入時期に関する調査・研究

(2) 維持透析療法部会

適正な維持透析療法に関する調査・研究

(3) 適正透析普及部会

適正な透析療法の普及推進を行う

(4) 適正医療経済部会

適正な透析医療経済に関する調査・研究

1) レセプト分析

2) 施設機能評価の調査・研究

3) 透析医療経営実態調査

・平成14年度は

①平成14年度診療報酬改定に伴う影響実態調査

②点数改定の対応アンケート調査

③日本医師会「診療報酬改定検討ネットワーク」に正式加入

・平成16年度診療報酬改定に関する要望を厚生労働省、日本医師会等に実施する予定である。

(5) 医療廃棄物対策部会

・医療廃棄物対策に関する調査・研究

・平成15年度は、医療廃棄物有識者を招聘し、医療廃棄物の実態、資源リサイクル及び根拠法令等の説明会を実施する予定である。

(6) 在宅血液透析部会

在宅治療（CAPD・在宅血液透析等）の適応基準の調査・研究

(7) 医療制度検討部会

・医療制度における透析医療との関連に関する調査・研究

2. 地域医療システムに関する調査研究事業

透析施設間の相互連携による地域透析医療システムを確立するための調査・研究

① 危機及び災害時における救急透析医療システムの作成に関する調査・研究

医療安全対策委員会 [委員会のもとに3部会を置く]

(1) 災害時透析医療対策部会

平成14年度より、災害対策規程及び災害情報運用規則を設け、地域災害対策推進の拡大を図って来た。

・平成15年度は、ブロック別災害時救急透析医療システムの構築を図る。

- (2) 感染症対策部会
院内感染実態調査及び感染防止対策の調査・研究

- (3) 医療事故対策部会
・医療事故実態調査及び事故防止対策の調査・研究

② 長期透析患者の合併症に対する調査・研究

合併症対策委員会

- 1) 透析導入の初発原因（原疾患・病因等）に関する調査・研究
- 2) 患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究
- 3) 患者の長期生存に伴い発生する合併症及びその原因に対する調査・研究

3. 国等公的機関の実施する透析医療科学研究推進事業

厚生科学研究推進委員会 [委員会のもとに1部会を置く]

透析医療IT化推進部会

*平成15年度厚生労働科学研究計画について

- ・長期透析に伴う合併症の克服に関する研究の実施（3年計画 3年目）
- ・血液透析施設におけるC型肝炎感染事故（含：透析事故）防止体制の確立に関する研究（3年計画 2年目）

4. 学術調査研究会等特定公益増進法人助成推進事業

学会等研究助成審査委員会 （助成先の適合審査の実施）

学会等研究助成交付審査委員会 （助成金の交付審査の実施）

*平成14年度は、11件の助成推進事業を実施した。

また、学会等研究助成審査委員会の他に、新に5名の非会員による学会等研究助成交付審査委員会を設け、助成の公平性と適正化及び助成先の充実及び拡大を一層推進することとした。

*平成15年度は、特定公益増進法人助成推進事業の一層の拡大を図ることとする。

5. 腎移植普及推進に関する事業

腎移植普及推進委員会

*会員及び患者に対しての協力・普及を目的とする。

- 1) 臓器移植推進月間・腎バンク及び地方腎移植推進システムへの協力
- 2) 会員に対する腎移植の啓発・教育（脳死問題を含む講演会及び腎移植広報活動等）
- 3) 患者に対する腎移植推進（会員の日常業務として、地区患者を対象とする推進協力）
- 4) 関係団体への協力事業（医療施設や遺族に対するドネーションの啓発）
- 5) 腎移植コーディネーター問題の研究

6. 腎不全予防医学の調査研究事業

腎不全予防医学調査研究委員会

*透析導入を予防し、残腎機能を維持させるための調査・研究

- ・透析導入前の慢性腎不全患者に対する保存的維持療法の調査・研究及び関係団体への協力について推進する。

7. 研修等事業

研修委員会

*平成14年度は、15周年記念シンポジウムを実施した。

- 1) 腎不全臨床医療スタッフの研修会（シンポジウム，セミナー）の開催
- 2) 学術研究への協力
- 3) 関係学会・団体との研究協力
- 4) 国内講演会等の開催

8. 広報活動及び刊行物の発行に関する事業

広報委員会

*機関誌等の発行

- 1) 医会雑誌（年3回発行）
内容充実に一層の努力をする。
- 2) 医会ニュース・速報等
必要の都度発行する。

9. 会員の教育・研修及び倫理向上に関する調査研究事業

倫理委員会

*会員の倫理向上に関する調査・研究

10. 情報の公開等適正管理及び情報管理に関する事業

情報管理委員会

*本会が保有する文書，図画，図面及び電磁的記録等の情報公開の管理，適正保管及びその創意工夫等の調査研究

- ・平成14年度より，情報管理規程を設け，情報公開等の適正活用を推進している。
- ・平成15年度は，引き続き既存ホームページの内容充実並びに関係団体への情報提供の拡大を図る。

平成 15 年度予算 (案)

[収入の部]

(単位：千円)

区 分	平成 14 年度予算 (修正)	平成 15 年度予算 (案)	増 減
1. 会費収入	77,220	78,000	780
2. 入会金収入	270	390	120
3. 寄付金収入	32,095	110,000	77,905
4. 雑収入	1,012	30	-982
5. 受取利息	3	6	3
6. 銀行預金取崩収入	70,000	0	-70,000
7. 前年度繰越金	45,597	9,925	-35,672
計	226,197	198,351	-27,846

[支出の部]

(単位：千円)

区 分	平成 14 年度予算 (修正)	平成 15 年度予算 (案)	増 減
1. 事業費	192,170	168,268	-23,902
2. 管理費	24,102	20,935	-3,167
3. 予備費	0	2,000	2,000
5. 次年度繰越金	9,925	7,148	-2,777
計	226,197	198,351	-27,846

支出の部内訳

(単位：千円)

区 分	平成 14 年度 予算 (修正)	平成 15年度 予算 (案)	%	増 減
I 事業費（調査研究事業費）	192,170	168,268		-23,902
1) 適正透析療法委員会				
(1) 適正透析導入部会	1,177	1,411	0.80	234
(2) 維持透析療法部会	0	893	0.50	893
(3) 適正透析普及部会	316	1,309	0.80	993
(4) 適正医療経済部会	5,517	6,209	3.70	692
(5) 医療廃棄物対策部会	0	627	0.40	627
(6) 在宅血液透析部会	0	481	0.30	481
(7) 医療制度検討部会	853	1,169	0.70	316
2) 地域透析医療システム				
(1) 災害時透析医療対策部会	2,834	7,103	4.23	4,269
(2) 感染対策部会	0	0	0.00	0
(3) 医療事故対策部会	0	0	0.00	0
(4) 合併症対策委員会	2,959	3,543	2.11	584
3) 腎移植普及推進委員会	8,771	9,268	5.52	497
4) 腎不全予防医学調査研究委員会	6,535	112	0.07	-6,423
5) 研修委員会	11,493	11,217	6.68	-276
6) 広報委員会	12,337	10,981	6.54	-1,356
7) 情報管理委員会	0	0	0.00	0
8) 内規委員会	0	0	0.00	0
9) 倫理委員会	0	360	0.00	360
10) その他の事業				
(1) 学会助成費	104,157	113,315	67.49	9,158
(2) 厚生科学研究推進委員会	27,161	0		-27,161
(3) 助成交付審査委員会	0	270	0.16	270
(3) 15周年記念シンポジウム実行委員会	8,060	0		-8,060
II 管理費	24,102	20,935		-3,167
1) 人件費	13,941	11,475		-2,466
2) 家賃	2,333	2,500		167
3) その他の経費	7,828	6,960		-868
III 予備費	0	2,000		2,000
V 次年度繰越金	9,925	7,148		-2,777
計	226,197	198,351		-27,846

平成 15 年度通常総会での主な決定事項

議 事

第 1 号議案：平成 14 年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

第 2 号議案：平成 15 年度事業計画及び予算の承認を求める件

第 3 号議案：役員任期満了に伴う新役員承認を求める件

第 4 号議案：その他

以上について審議し承認されました。総会の主な内容については以下に要約し、最後に質疑応答に関して「Q & A」方式でまとめました。

平成 14 年度事業報告について

通常総会、臨時総会、常任理事会および各委員会の活動報告がされました。その中で「日本透析医会創立 15 周年記念シンポジウム（平成 14 年 11 月 10 日開催）」と「厚生労働科学研究」について報告します。

1. 「日本透析医会創立 15 周年記念シンポジウム」について

糸氏英吉先生（日本医師会副会長）は、「医療改革の方向性を探る」と題した基調講演の中で、① 21 世紀の医療のあり方には公的皆保険制度の廃止、公的と民間保険の組合せ、公的皆保険制度の堅持という選択肢があり、日本医師会は公的皆保健制度の堅持を主張していること、② 高齢者医療制度は、保障原理を主体とし、拠出金制度を廃止して、その財源は税金で賄うべきであること、③ 一般医療は保険原理で運営し、原則医療コストは保険料で賄うべきであること、④ 保険財政再建のためには、短期的には保険者がバランスシートの透明化と健全化をはかり、中長期的にはすべての保険者の統合・一本化を進める必要があること、など日本医師会の主張を話されました。

シンポジウム「5 年後の腎不全医療を考える」では、①「糖尿病性腎症はどこまで防げるか」頼岡徳在先生、②「血液浄化技術はどこまで進歩するか」天野泉先生、③「腎移植は日本でどこまで普及するか」高橋公太先生、④「透析患者に対する医療保険はどうあるべきか」山崎親雄先生、⑤「透析患者が期待する透析医療」春木繁一先生が講演され、満員の出席者も最後まで熱く聴講されました。

2. 「厚生労働科学研究」2 題について

1) 「長期透析に伴う合併症の克服に関する研究」

この研究では日本透析医会の会員施設が良質な透析医療を提供できるような「透析医療の標準化」を目標として、13 年度（初年度）に作製配布しました「透析検査結果評価システム」に、今年度の成果として「検査結果値の経時的变化判定」、「複数項目検査結果によるフローチャート貧血判定」を加え、診断と予防機能を充実させました。さらに MINT システム利用の利便性を加味しバージョンアップしました。また、災害などで施設のデータが失われてもフィードバック可能なサーバ機能を確立し、環境を整備しました。次に長期透析患者の合併症に関する「診断と治療マニュアル」を作製し、各種合併症の診断、治療に役立つようにし、このマニュアルを CD-ROM に記録し、施設会員（1,040 施設）へ配布しました。

2) 「血液透析施設における C 型肝炎感染事故（含：透析事故）防止体制の確立に関する研究」

この研究では、C 型肝炎をはじめウイルス肝炎の院内感染防止と事故防止対策を様々な角度から検討

し、「透析医療の安全と質」の担保を目標として検討を開始しました。今年度については、①透析患者におけるC型肝炎新規感染と環境との関係調査、②透析事故に関するアンケート調査（3,327施設）、③施設基準に関するアンケート調査（3,327施設）、④透析看護基準に関する検討を行いました。今後、透析施設機能評価や施設基準を提示していく予定であります。

3. 「危機管理委員会」から「医療安全対策委員会」への名称変更について

「危機管理、リスクマネジメント」の語源は、産業界では組織の損害を最小の費用で最小限に食い止めることを目的としており、また医療分野でも最初は同じように経済的打撃を減少させることを目的としておりました。現在、われわれの求めているのは「不可避的なリスクを管理し、いかに患者の安全を確保するか」であり、目的が異なりますので、「危機管理委員会」より肯定的な「医療安全対策委員会」へ名称を変更しました。この名称については厚生労働省でも推奨しております。

平成 15 年度事業計画について

平成 15 年度事業は基本的に前年度事業を継続することが承認されましたが、新規事業、重点項目としては以下のものがあげられます。

1. 平成 16 年度診療報酬改定へ向け、対策案の作成（適正医療経済部会、医療制度検討部会合同協議）をします。①透析時間区分の復活、②水処理・エンドトキシン加算、③医療産業廃棄物加算などを中心に検討し要求していく予定です。また、今年度より日本医師会の「診療報酬改定検討ネットワーク」に正式に加入しましたのでこのネットワークも活用していく予定です。
2. 災害時透析医療対策部会は、専用のレンタルサーバを準備しブロック別災害時救急透析医療システムを強化する予定です。47 都道府県のうち現在 34 支部が結成されておりますが、災害ネットにリンクしているのは 9 支部しかありません。今後支部の活動の場として提供したいと考えています。
3. 「長期透析に伴う合併症の克服に関する研究」（3 年計画 3 年目、厚生労働科学研究）は、最終の Phase 3 に入りまとめなければなりません。Phase 2 で作製した MINT システム Version 2.01 を会員施設に配布、利用していただき、できるだけ多くの施設から患者データを送付していただき、そのデータを基に Phase 2 で残した検査基準値の精緻化、透析効率判定を高めるための機能充実をはかる予定です。さらに Phase 3 では、「診断と治療マニュアル」を組み込み、合併症防止、治療対策を強化、次に各種情報機器などを用いる ON-DEMAND の情報提供により患者の自己管理の強化を図り、その結果として、「情報公開の推進」と「透析医療の標準化」を実現する予定です。
4. 「血液透析施設における C 型肝炎事故（含：透析事故）防止体制の確立に関する研究」（3 年計画 2 年目、厚生労働科学研究）は、初年度の結果をもとに、C 型肝炎感染および透析事故の詳細分析を行い、地域を限定した感染・事故モニター制度を継続し、適切な調査・指導を実施する予定です。さらに、安全（感染・事故防止）を考慮した適正スタッフ数・施設基準を検討し、「透析医療の安全と質」の提供について検討する予定です。
5. 学術調査研究会などの事業は、日本透析医会が「特定公益増進法人」を維持するためには大変重要な事業で、今後会員の先生方が地域で開催される研究会なども含め、できるだけ助成の拡大を推進する予定です。事務局の方へご相談ください。「学会等研究助成審査委員会」、「学会等研究助成交付審査委員会」を経て助成を検討させていただきます。

平成 14 年度決算および平成 15 年度予算について

平成 14 年度決算は総会資料のごとく承認されました。昨年度は、単年度 -16,727,390 円でしたが、今年度も -25,892,575 円の単年度での赤字でした。

平成 15 年度予算案は総会資料のごとく承認されました。昨年度の 226,197,000 円（修正）に比べ、本年度は 198,351,000 円と緊縮予算案を計上しました。

役員任期満了に伴う新役員承認について

新役員については総会資料のごとく承認されました。今回退任されました今忠正、飯田喜俊、小出桂三、大森伯の各先生に今後ともご協力をいただくということで山崎会長が「顧問」に推薦され承認されました。

<総会での質疑応答>

1. Q: 会員の増強方策について、どのように考えているのですか？ また、会費については、今後も規模別でいくのでしょうか？ 入会后、透析台数がかわっていても当初の会費額を請求しているようですが、入会后における透析台数の変動の確認が必要ではないでしょうか？
A: 会員の増強方策については、各支部を通じて未加入者へ呼びかけを推進していきます。会費については、現状の方式でいきたいと思っておりますが検討の余地はあります。なお、施設規模に対する調査は実施する方向で考えます。
2. Q: 15 年度事業計画の厚生科学研究推進委員会は予算額が 0 円となっています。これは、委員会を開催しないということでしょうか？
A: 厚生科学研究推進委員会のメンバーは、常任理事会のメンバーが併任していることにより、常任理事会と併せて行うので委員会費用は 0 円となります。
なお、14 年度の多額な支出につきましては、本来厚生科学研究は国費予算にて行いますが、研究を遂行するためには、不足になることがあります。14 年度はその事態となり不足を補ったものを含んでおります。
3. Q: 感染症対策とは、具体的に何をするのでしょうか？ インフルエンザに対するワクチンの考え方も取り上げて欲しいです。
A: 「透析医療における院内感染予防に関するマニュアル」の中で、感染対策に関する医会の考え方が指針として示されています。そのマニュアルの見直しの中で、取り上げていくことになると考えております。
4. Q: 15 年度寄付金が 11,000 万円と昨年の実績額 3,152 万円に対し、大変多いが、何か目論見があるのでしょうか？
A: 14 年度は寄付金が少なく収入予算面で非常にきびしいものがありました。15 年度の寄付金収入も前年度実績を大幅に上回っておりますが、例年並の事業を行う上で、必要とする予算額を計上してあります。幾つかの寄付金収入は目安がついておりますし、予算の確保には努力してまいります。
5. Q: 日本医師会の「診療報酬改定検討ネットワーク」に正式加入ということですが、具体的に今後どのように行われていくのでしょうか？
A: 現在、日本医師会は診療報酬改定に際して、日本医師会が認知している医会のグループをネットワークとして、利用しようという提案をしています。
今後、診療報酬改定の内容が提示されますと、日本医師会から改定内容について、医会の意見が求められます。医会としては、それに応ずるとともに従来同様、厚生労働省へも要望書を上げていく予定であります。
6. Q: 合併症対策委員会の事業として、昨年同様「患者の高齢化に伴う収容施設の相互連携化に対する調査・研究」とありますが、調査内容と進捗状況を教えてください。

A：具体的には進んでおりません。今後、関連の調査などがありましたら会員にご提示致します。

7. Q：理事改選について、地方の選出枠の理事は、直接地方からの推薦により選出されるかたちにしてほしい。

A：それぞれの前任理事と十分協議し、その上でご推薦いただいて、選出しましたので、結果的に地方からの選出者ということで、ご理解願いたい。

8. Q：総会出席者が少ないので、総会を講演会・研修会に併せ開催してはどうでしょうか？

A：出席者の増加方策について、講習会・研修会と同時開催の可否など検討させていただきます。

9. Q：透析医療がだんだん厳しくなってきましたと、アメリカのようなチェーン化が進んでいくのでしょうか？ 医業経営ということで、今後の展開についてご意見をうかがいたい。

A：これから競合の時代で生き残り合戦がはじまるという見方をされている方が大部分だと思います。生き残るためにチェーン化も一つの方法かもしれません。医会としますともう少し行く末を見据えたいと考えております。ただ、質的に問題があるということになれば、医会としてコメントを出すつもりでおります。

10. Q：総会での質疑応答について、具体的に医会雑誌に掲載して欲しい。

A：できる限り具体的な内容を医会雑誌に掲載させていただきます。

(文責 杉崎弘章)

(社) 日本透析医会通常総会議事録

1. 会議の種類 通常総会
1. 開催場所 ホテルニュー神田3階 306・307号室(東京都千代田区神田淡路町2-10)
1. 開催日時 平成15年5月18日(日) 午後2時00分~4時00分
1. 会員総数 1185名
1. 出席会員数 635名 内訳 本人出席 26名 書面出席 609名
1. 議事の経過

定刻に到り事務局長から、本日の通常総会出席会員数は定足数を満たしたので、有効に成立した旨を告げた。

初めに会長山崎親雄氏から挨拶があり、併せて本日の総会議長の選出が諮られ、満場一致をもって今忠正氏が選任された。

今議長は、挨拶に続き議事録署名人に吉田豊彦氏、杉崎弘章氏の両名を指名し、両名とも満場一致で選任された。

続いて議案の審議に入った。

第1号議案 平成14年度事業報告及び収支決算の承認を求める件

総会資料に基づき、常務理事吉田豊彦氏から、事業報告について1.会議 2.委員会 3.会務報告の順に説明があり、続いて専務理事鈴木満氏から収支決算書の詳細な説明が行われた。引続いて監事大森伯氏から平成14年度決算報告の監査結果について、妥当であった旨報告された後、議長による採決が行われ、満場一致で承認された。

第2号議案 平成15年度事業計画及び予算の承認を求める件

常務理事杉崎弘章氏から、総会資料により15年度事業計画の概要及び前年度実績に基づく予算(案)について説明が行われた。引続いて議長による採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

第3号議案 役員任期満了に伴う新役員承認を求める件

会長山崎親雄氏から、辞任された今忠正氏、飯田喜俊氏、鈴木満氏、小出桂三氏、後藤宏一郎氏の後任として、大平整爾氏、山川智之氏、澤宏紀氏、隈博政氏の4名を新たに加える。また、監事を辞任された大森伯氏の後任には鈴木満氏を推薦し、総会資料の役員名簿(案)のとおり新役員を選任したい旨説明があり、議長により採決の結果、満場一致で原案どおり可決承認された。

第4号議案 その他

1. 顧問就任についての承認を求める件

会長山崎親雄氏から、役員を辞任された今忠正氏、飯田喜俊氏、小出桂三氏、大森伯氏の4名について、顧問に選任したい旨の提案があり、議長からの採決の結果、満場一致で可決承認された。




2. 医会執行部に対する要望等、自由討論が活発に行われた。

午後4時00分をもって通常総会の議案全てを終了し、議長は閉会を宣し解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長並びに議事録署名人がこれに署名押印する。

平成 15 年 5 月 18 日

社団法人日本透析医会通常総会に於いて

議 長	今 忠子	
議事録署名人	吉田 豊彦	
同	柳崎 弘章	

(社) 日本透析医会 役員名簿

役 職 名	氏 名	現 職
会 長	山 崎 親 雄	医療法人衆済会 増子記念病院附属則武診療所 所長
副 会 長	吉 田 豊 彦	医療法人社団誠仁会 理事長 (みはま病院)
	大 平 整 爾	医療法人社団恵水会 札幌北クリニック 院長
専務理事	杉 崎 弘 章	医療法人社団心施会 理事長 (府中腎クリニック)
常務理事	小野山 攻	医療法人小野山診療所 理事長
	鈴 木 正 司	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 副院長
	廣 田 紀 昭	廣田医院 院長
	山 川 智 之	特定医療法人仁真会 理事長 (白鷺病院)
理 事	井 形 昭 弘	名古屋学芸大学 学長
	太 田 和 夫	太田医学研究所 所長
	山 下 眞 臣	社団法人国民年金協会 理事長
	澤 宏 紀	鈴鹿医療科学大学 学長
	前 田 憲 志	大幸医工学研究所 所長
	藤 見 惺	医療法人医心会福岡腎臓内科クリニック 院長
	松 田 鈴 夫	国際医療福祉大学 教授
	秋 澤 忠 男	和歌山県立医科大学 血液浄化センター 教授
(東 北)	関 野 宏	医療法人宏人会 理事長 (医療法人宏人会中央病院)
(東 北)	村 上 秀 一	医療法人三良会 村上新町病院 院長
(関 東)	黒 田 重 臣	国立東静病院 院長
(関 東)	秋 葉 隆	東京女子医科大学腎臓病総合医療センター血液浄化部門 教授
(甲信越)	土 屋 隆	医療法人輝山会 理事長 (輝山会記念病院)
(中 部)	指 出 昌 秀	医療法人一秀会 理事長 (指出泌尿器科)
(関 西)	後 藤 武 男	高砂市民病院 名誉院長
(関 西)	小 野 利 彦	医療法人桃仁会 理事長 (医療法人桃仁会病院)
(中 国)	土 谷 晋 一 郎	医療法人あかね会 理事長 (土谷総合病院)
(中 国)	原 田 知	医療法人社団一陽会 原田病院 院長
(四 国)	寺 尾 尚 民	医療法人尚腎会 理事長 (高知高須病院)
(九 州)	隈 博 政	医療法人くま腎クリニック 理事長
(九 州)	工 藤 寛 昭	医療法人杏和会 工藤医院 院長
監 事	鈴 木 満	医療法人松圓会 名誉理事長 (東填クリニック病院)
	岩 月 史 郎	お茶の水法律特許事務所 弁護士
	伊 原 美 好	監査法人 芦沢会計事務所 公認会計士
名誉会長	稲 生 綱 政	医療法人大坪会 東和病院 名誉院長
	平 澤 由 平	社会福祉法人新潟市社会事業協会 信楽園病院 顧問